

## 今日のみことば

### □ 1月15日(日) ヨハネ 14章

主イエスはこの世を去って行かれる。しかし主にある者たちを決して孤児にはされない。主を愛する者は、主の戒めである神の言葉をまもる。

### □ 1月16日(月) ヨハネ 15章

サタンとの最後の決戦を前に、イエスの弟子として使命と、それを十全に果たすための条件を告げられる。ご自分と弟子たちがぶどうの木と枝のように密接に結びついていることです。

### □ 1月17日(火) ヨハネ 16章

イエスが去られることによって聖霊が来て、人々に真理を悟らせ、より深い理解へと導く。キリストの死は悲しいが、復活によって永遠の喜びが訪れる。

### □ 1月18日(水) ヨハネ 17章

イエスが祈られた地上での最も長い祈りです。イエスは残してゆく弟子たちを、神が彼らを守り、彼らの生活が神の真理のみ言葉で形作られ、主のご栄光を見ることが出来るようにと。

### □ 1月19日(木) ヨハネ 18章

イエスは捕らえられ、ピラトの尋問を受けられた。ピラトはイエスに罪はないことは分かったが、人々のイエスに対する要求には抗することが出来なかった。

### □ 1月20日(金) ヨハネ 19章

イエスの十字架刑を四福音書は記者の目でそれを伝えるが、同じメッセージである。預言を成就すために十字架に死なれた。私たちは自分の罪から救われ、永遠のいのちを受ける。

### □ 1月21日(土) ヨハネ 20章

弟子たちはイエスの墓が空であることを発見した。イエスはやみがえられたことを証明するために弟子たちに会われました。ヨハネは人々に信仰の確信を持たせるためにこの書を書いた。

---

ろ ぼ No. 1798  
2017年 1月15日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

エペソ6:14

立って真理を帯として腰に締め、正義を胸当てとして着け。

「悪の諸霊」との戦いに挑むためには、まず「しっかり立ちなさい」と言われます。これから何をしようとしているのか。その覚悟を詰めなければなりません。ダビデが大男のゴリアテに立ち向かうことを申し出た時、サウル王は勇者としての武具を身につけさせました。それはダビデの身には合わないものでしたので、彼は身一つでゴリアテと対峙しましたが、私たちの戦いは、血肉に対するものではなく、悪の諸霊との戦いです。「主にあって、その大能の力によって強くされ」て戦うのです。その心構えを問われるのです。これはいかなる事始めにおいても大事なことであろうと思っています。

さて「帯」は基本的な第一の装備でしょう。あれやこれやの重装備に先んじて、臨機応変、機敏な行動を可能にする下ごしらえです。日頃は着流しに帯を締めて、身を繕っていた彼らですが戦いに出かけるためには、しっかりと身繕いをしなければなりません。この戦いは血肉・人間相手の戦いではないのです。あくまでもその背後の悪魔との戦いです。したがってこれに対抗する方法は「主にあって」進む以外にありません。悪魔の目標は、私たち一人一人を主のご支配から引き離すことにありますしかし私たちが主にあるとき「その大能の力によって進める」ことができるのです。ここで忘れてならないのは、私たちの戦いは目に見えない悪魔との戦いだと言うことです。それゆえに

パウロがあげる比喻もまた、あくまでも目に見えない「大能の力」が、クリスチャンの内にあるとどのように現れるかと言うことです。そうゆう意味でパウロは「ですから、邪悪な日に際して（悪魔の勢力に）対抗できるように・・・神のすべての武具をとりなさい」と命じます。

「武具」とは、敵の攻撃から身を守り、反撃するものです。したがって、霊の戦いの装備は、神の言葉の真理、福音でありその真理に対応する私たちクリスチャンの信仰です。一つ一つの装備にあまりこだわる必要はないのかも知れませんが、私はいかに悪の霊から身を守るためにいかに整えるべきかを、しっかりと心得たいと願っています。

第一に「真理を帯」として腰に締めることと言われます。私たちが神について知れたければ「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」(ヨハ14:6)とイエスは言われました。真理は神からのものです。しっかりとこの帯を腰に締めて、その守りの確信を得るのです。安心こそがこの戦いの大切な点です。信じて従ってくるものを、神はしっかりと守って下さる(ヨハ3:18)のです。パウロは「神は愛する者たちと共に働いて、万事を益として下さる」(ロ8:28)と言います。

「愛にあって真理を語り、あらゆる点において成長し、頭なるキリストに達するのである」(エペ4:16)と語られます。神は私たちのために「真理の帯」を整えて下さり、弱るときの力として下さいます。信仰を持って神の言葉をしっかりと聞き、偉大なる真理と、求めと、神の約束の真実をしっかりと記憶すべきです。

次週の聖書・説教	エペソ 6:10-20 クリスチャンの防弾チョッキ
----------	---------------------------

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————  
ルカ11:1-13 イエスが祈りについて教えられたこと

イエスは弟子たちに「わたしたちにも祈りを教えて下さい」と求められました。そこでのイエスの教えは、しっかりと自分の祈りをする言うことでした。「奥まった自分の入って祈りなさい」(マ16:6)と言われました。

また教えて下さった祈りでイエスは、「私たちの」「私たちの」と言われます。「私の」ためではなく「私たちの」ために祈るのです。これはクリスチャンに大切なものです。

イエスは「御国が来ますように」に祈ることを教えられました。この失われた世界が取り戻されることは、私たちの切なる願いではありませんか。上よりの神の力を与えられ、み言葉に生かされて御心が行われる世界が実現されるために私たちは祈り、行動することは私たちの務めでもあります。

イエスは「地上でつなぐことは、天上でもつながれる」(マ18:18-19)と言われる。しっかりと他者と共に祈るのです。



Read God's Word.